

博 防災計画 矛盾だらけ

万 大阪市議会特別委 山中議員が質疑

大阪市議会の万博推進特別委員会が7日開かれました。日本共産党の山中智子議員は、博覧会協会が9月に公表した防災実施計画などについて質問。来年4月の万博開幕まで13日で半年ですが、ますます困難や矛盾が増えていることが浮き彫りになりました。

山中氏は、有事の際に対応するのは博覧会協会だが、あくまで万博開催のための組織だと指摘。「災害時の非常食は1日2食でよいとする協会は、どんな立場で仕事をしているのか。いざというときに、来場者や働く人の安全を守る使命感が持てるのか」と語りました。

「防災実施計画は絵に描いた餅ではないか」という声にどう答えるか」と山中氏が迫ったのに対し、万博推進局は「府市として、協会などと連携して安全確保に努める」と述べるにとどまりました。

山中氏は、児童・生徒の無料招待事業で、「子ども専用列車」を設定してもホームは混雑するなど、対応するたびに不安が増大しているとし、「学校単位での参加自体を見直すべき」と求めました。

市教委は「学校・学年単位での参加に教育的意義がある。学校現場と連携して取り組む」と答弁



質問する山中市議 7日

「十分に下見もできないのに、教育的意義がある」と言うこと自体が異常だ」と主張しました。

(2024年10月13日付大阪民主新報)